

Title	韓国における日本企業の環境適応に関する一考察
Sub Title	
Author	大関義夫(Oozeki, Yoshio) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第821号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0821

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 大関 義夫 主査 石田 英夫
副査 奥村 昭博
森川 英正
所属 石田 英夫 研究室

韓国における日本企業の環境適応に関する一考察

韓国では、外資に対する規制が存在するため、日本企業が現地で活動を行う殆どの場合、現地パートナーと提携した合併企業の形態を取らざるを得ない。そのため、良好なパートナー関係の構築が、日本企業が環境適応して成果を上げる為の主要な条件となる。良好なパートナーシップ構築の鍵はパートナーの選択と、組織内での効率的な異文化インターフェイス管理と考えられる。

そこで、本研究では日系合併企業のパートナー関係に焦点を当て、現地での事例調査を通して、それらの企業が、どのようなパートナーを選んでいるか、どのようにして組織内の異文化インターフェイスを効率的に管理しているかを検討することとした。

その結果、日本企業は、パートナーとの経営資源の格差、人格的側面、人的ネットワーク、戦略的ビジョンの一致を重視して韓国側パートナーを選択していることが判明した。そして、そのパートナーと組織内において二人三脚型第三文化体を形成するとともに、日本研修を受けた一部韓国人従業員も加えて、組織内の異文化インターフェイスを効率的に管理し、企業風土に適合した新しい経営（日本的経営のハイブリッド化）を創造することにより、現地の環境に適応し経営成果を上げていると考えられる。

また、この組織内での二人三脚型第三文化体の形成には、本社における支援者、駐在員の選択、といった本社からの協力や親会社同士の戦略的ビジョンの一致も影響を与えていた。

そして最後に、合併企業内での合併企業内の異文化インターフェイス管理を一層促進させるための提言を行った。